

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年5月14日

【四半期会計期間】 第21期第1四半期(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 日本コンセプト株式会社

【英訳名】 NIPPON CONCEPT CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 松元 孝義

【本店の所在の場所】 東京都千代田区内幸町二丁目2番2号

【電話番号】 03-3507-8812(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 仁科 善生

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区内幸町二丁目2番2号

【電話番号】 03-3507-8812(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 仁科 善生

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第1四半期 連結累計期間	第21期 第1四半期 連結累計期間	第20期
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高 (千円)	2,172,998	2,514,327	9,113,289
経常利益 (千円)	556,102	358,428	2,048,034
四半期(当期)純利益 (千円)	342,558	224,475	1,222,637
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	377,809	209,438	1,340,328
純資産額 (千円)	3,408,619	4,449,535	4,371,076
総資産額 (千円)	13,530,464	13,633,758	13,651,446
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	78.46	51.41	280.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	25.2	32.6	32.0

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善などを背景として回復基調が続くなか、消費税率引き上げ前の駆け込み需要や政府による経済対策が加わったことから、回復の足取りが加速しました。

一方、世界に目を向けますと、米国では、シェール革命を背景とする製造業復活の動きが強まるなか、設備投資や個人消費を中心に緩やかな回復を続けました。欧州も、債務問題の影響が依然残るものの、個人消費の持ち直しなどを背景として、底入れの兆しをみせました。一方、新興国においては、中国が7%台の経済安定成長への移行を進めるなど、全体としてこれまでの経済成長の勢いに陰りがみられました。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、円安による輸送貨物の価格競争力の向上や、アメリカの景気上昇、欧州経済の底入れなどを背景として、輸出が増加しました。輸入も、国内景気の回復を要因として、アジアや北米などを中心に増加しました。さらに、三国間取引も、アジアやヨーロッパを中心に増加したことから、当社全体の取扱高は順調に拡大しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,514百万円（前年同期比15.7%増）となりました。また、利益面では、営業利益は439百万円（前年同期比19.5%増）、経常利益は358百万円（前年同期比35.5%減）となり、法人税等差引後の四半期純利益は224百万円（前年同期比34.5%減）を計上しております。なお、経常利益並びに法人税等の差引後の四半期純利益が前年同期を下回った理由は、前年同期においては為替差益70百万円とデリバティブ評価益175百万円を計上していた為であります。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ17百万円減少（0.1%減）し、13,633百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ124百万円減少（3.6%減）し、3,347百万円となりました。売掛金が46百万円、その他の流動資産が101百万円増加したものの、現金及び預金が272百万円減少したことが主な要因です。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ108百万円増加（1.1%増）し、10,278百万円となりました。タンクコンテナ購入等により有形固定資産が107百万円増加したことが主な要因です。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ120百万円減少（3.5%減）し、3,282百万円となりました。買掛金が110百万円、短期借入金が143百万円、1年内返済予定の長期借入金が68百万円増加したものの、未払法人税等が432百万円減少したことが主な要因です。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ24百万円増加（0.4%増）し、5,901百万円となりました。社債が90百万円、長期借入金が101百万円減少したものの、リース債務が224百万円増加したことが主な要因です。

純資産は、前連結会計年度末に比べ78百万円増加（1.8%増）し、4,449百万円となりました。利益剰余金93百万円の増加が主な要因です。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,664,000
計	15,664,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年5月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,366,000	4,366,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、 株主としての権利内容に 何ら限定のない当社にお ける標準となる株式であ ります。 また、1単元の株式数は 100株となっております。
計	4,366,000	4,366,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年3月31日		4,366,000		600,440		503,440

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,365,500	43,655	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、1単元の株式数は100株となっております。
単元未満株式	普通株式 500		1単元(100株)に満たない株式
発行済株式総数	4,366,000		
総株主の議決権		43,655	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式30株が含まれております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,068,209	1,795,756
売掛金	1,015,912	1,061,980
その他	388,896	490,710
貸倒引当金	1,451	896
流動資産合計	3,471,566	3,347,551
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	737,139	720,724
タンクコンテナ(純額)	7,372,333	7,518,478
土地	1,568,801	1,568,801
その他(純額)	278,571	255,867
有形固定資産合計	9,956,845	10,063,871
無形固定資産	98,017	96,540
投資その他の資産	115,495	118,402
固定資産合計	10,170,358	10,278,814
繰延資産	9,521	7,392
資産合計	13,651,446	13,633,758
負債の部		
流動負債		
買掛金	636,196	746,908
短期借入金	70,000	213,000
1年内返済予定の長期借入金	1,378,989	1,447,022
1年内償還予定の社債	324,600	264,600
リース債務	109,926	136,419
未払法人税等	570,101	137,449
賞与引当金	20,504	37,460
その他	293,069	299,732
流動負債合計	3,403,389	3,282,593
固定負債		
社債	230,000	140,000
長期借入金	4,744,305	4,643,230
リース債務	594,305	818,499
退職給付引当金	64,951	67,957
その他	243,418	231,943
固定負債合計	5,876,981	5,901,629
負債合計	9,280,370	9,184,223

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	600,440	600,440
資本剰余金	526,599	526,599
利益剰余金	3,179,838	3,273,334
自己株式	62	62
株主資本合計	4,306,815	4,400,311
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	795	881
為替換算調整勘定	65,055	50,104
その他の包括利益累計額合計	64,260	49,223
純資産合計	4,371,076	4,449,535
負債純資産合計	13,651,446	13,633,758

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	2,172,998	2,514,327
売上原価	1,543,578	1,773,201
売上総利益	629,419	741,126
販売費及び一般管理費	261,639	301,737
営業利益	367,779	439,388
営業外収益		
受取利息	806	245
為替差益	70,287	-
デリバティブ評価益	175,946	-
受取家賃	918	1,171
受取保険金	-	1,851
受取補償金	1,904	102
その他	916	2,040
営業外収益合計	250,780	5,411
営業外費用		
支払利息	56,926	51,375
為替差損	-	17,916
その他	5,531	17,080
営業外費用合計	62,457	86,372
経常利益	556,102	358,428
特別利益		
固定資産売却益	-	13
特別利益合計	-	13
特別損失		
会員権売却損	5,278	-
特別損失合計	5,278	-
税金等調整前四半期純利益	550,824	358,442
法人税等	208,265	133,967
少数株主損益調整前四半期純利益	342,558	224,475
四半期純利益	342,558	224,475

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	342,558	224,475
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	85
繰延ヘッジ損益	16	-
為替換算調整勘定	35,135	14,951
その他の包括利益合計	35,251	15,037
四半期包括利益	377,809	209,438
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	377,809	209,438
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年3月31日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年3月31日)	
(法人税率の変更等による影響)	
「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の38.0%から35.6%に変更されております。	
なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
減価償却費	162,971千円	173,564千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月27日 定時株主総会	普通株式	130,980	30	平成24年12月31日	平成25年3月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月27日 定時株主総会	普通株式	130,979	30	平成25年12月31日	平成26年3月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

当社グループの事業は、タンクコンテナを使用した国際複合一貫輸送及び附帯業務の単一事業であり、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

当社グループの事業は、タンクコンテナを使用した国際複合一貫輸送及び附帯業務の単一事業であり、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	78円46銭	51円41銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	342,558	224,475
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	342,558	224,475
普通株式の期中平均株式数(株)	4,366,000	4,365,970

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 5月14日

日本コンセプト株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 向 眞 生 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鎌 田 竜 彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本コンセプト株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本コンセプト株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。